

1 ポイント（特に工夫した項目に○ いくつでも）

教材教具の工夫	
1 実態に合っているか？	○
2 ねらいが明確か？	○
3 興味関心を生かしているか？	○
4 シンプルで誰でも再現可能か？	○
5 一目で動作をイメージできるか？	
6 児童生徒も教師も使いやすいか？	○
7 実際の生活や他の場面で生かせるか？	

作成者：古川貴美、水野順貴（小学部）

2 児童生徒の実態（学級グループ）

- ・朝の自由遊びや休み時間には、多目的ホールや図書コーナーで遊ぶことが多い。
- ・自分の意思を発声や身振りで伝えようとするが、不明確で、相手に分かりにくい。
- ・写真や絵に興味をもっており、写真や絵を手掛かりに行動したり、ある程度見通しをもったりすることができる。

写真を見るのが好き。



多目的ホールで遊ぶのが好き。

3 教材教具のねらい

- ・自分の意思を相手に分かるように伝えることができる。

4 改善の経緯

(1) 8月頃の使用例や児童生徒の様子

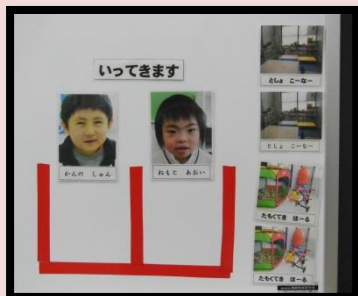


- ・ホワイトボードに場所の写真を貼っておくと、遊びたいときは自分から写真を指差す姿が見られた。
- ・遊びたい場所の写真を名前カードの上に貼るようにしていたが、どこに写真を貼ってよいか分からないようであった。
- ・両手を合わせて「お願い。」の身振りをすることが多いが、何のお願いなのか伝わりにくかった。

改善のポイント！！

- ・児童が写真を選びやすく、また貼る位置が分かりやすいようにする。
- ・教材を提示する場所を出入り口に近い方にする。
- ・「いきます」カードを用いることで、何をしたいかが伝わりやすく、また発語を促せるようにする。

(2) 12月現在の使用例や児童生徒の様子



- ・自分から遊びたい場所（主に多目的ホール）の写真を貼り、行きたい場所を伝えられるようになってきている。
- ・「いきます」カードを指差したり、教師の言葉を音声模倣したりして、「行きたい。」という意味を伝えられるようになってきている。

今後の改善や使用について

- ・実態に応じて、場所の写真を増やしたり、他の場面で使用したりすることができるように工夫する。